

有馬郡二郎村芝家文書概要

- 1: 文書群番号 080008
- 2: 文書群名 有馬郡二郎村芝家文書
- 3: 出所 芝家
- 4: 家業・役職等 近世：大庄屋
近代：有野村会議員
- 5: 地名 兵庫県有馬郡上二郎村、下二郎村／兵庫県有馬郡有野村二郎／兵庫県有馬郡有野町二郎／神戸市兵庫区有野町二郎／神戸市北区有野町二郎
- 6: 行政区分 丹波国福知山藩領／幕府領／武蔵国岩槻藩領／上総国飯野藩保科氏領／兵庫県有馬郡上二郎村、下二郎村／兵庫県第18区／有野村／有野町／神戸市
- 7: 歴史 『有野町史』によれば、芝家の先祖は京都藤原氏系の公家ともいわれ、慶長年間に有馬郡中村馬場（現神戸市北区有野町）に移住し豪農となった。当主は代々市左衛門を名乗り、元禄年間から領主や三田藩などに金銀を貸し付け、苗字帯刀も許され、大庄屋も務めた。文化年間、所有する田地を三分し、二郎および山口村の二か所に分家した。芝家は三田藩と特に親密な関係にあり、扶持を給されていた。芝市左衛門は天保5（1834）の『日本持丸長者集』・嘉永4年（1851）『大日本持丸長者鑑』にも記載されている。
二郎芝家は、文化年間に迎えた女婿が市郎右衛門を名乗って二郎村に移り馬場の本家から分家した。二郎芝家は三田藩の用達を務め、本家同様扶持が給されていた。幕末頃には下男6人・下女4人を使用する持ち高160石の豪農で、二郎村に隣接する名木村（現西宮市山口町）にも広大な山林を有していた。
尼崎市域では、富田・戸ノ内・岡院・若王寺の各村の一部が飯野藩保科氏領に属していた。
- 8: 伝来 出所の所蔵を離れた本文書群を、昭和55年（1980）7月11日に史料館が古書籍商より購入し、平成15年（2003）6月に整理・目録作成を完了した。
- 9: 史料入手先 古書籍商
- 10: 点数 433点（目録件数408件）
- 11: 年代 延享4年（1747）～近代
- 12: 構造と内容 本文書群は二郎村芝家の史料で、①芝市郎兵衛が大庄屋であった近世後期の史料と、②明治前期の二郎村地租・土地関係史料の控え、③芝家の私的史料から構成されている。
①は年貢皆済目録・先納銀割付け覚えなど貢租関係、②は一筆限り地価修正帳等地租関係書類、③は勘定書・内祝い関係の覚えなどが主である。
- 13: 関連史料 「摂津国有馬郡下二郎村大庄屋芝家文書」（『神戸市立博物館館蔵品目録 考古・歴史の部23 古文書Ⅷ』神戸市立博物館、2007）
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 坂江 愛